



木目健治朗*

映像技術の最新動向

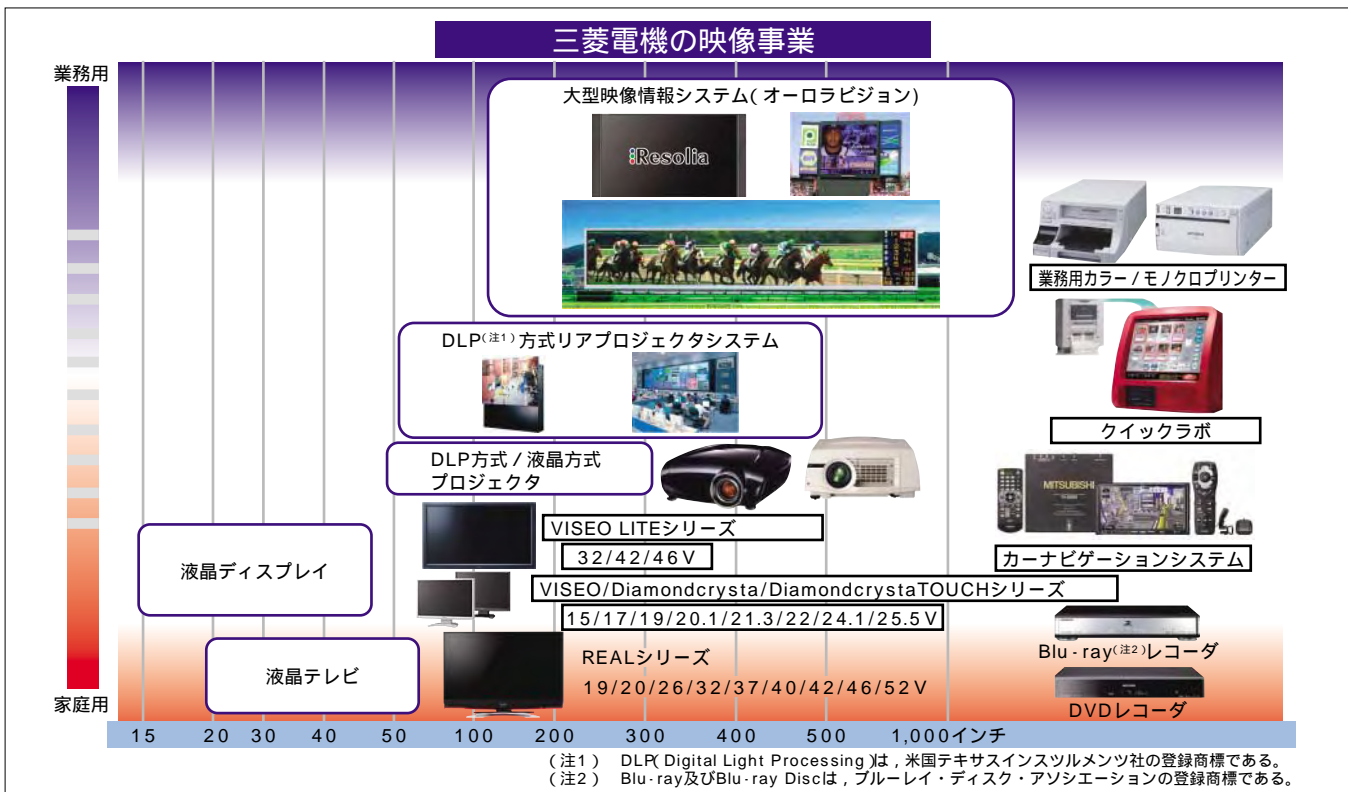
Display and Storage Technology Trend

Kenjiro Kime

要 旨

放送のデジタル化、パッケージメディアのハイビジョン化、映像表示デバイスの変遷・多様化は、民生機器のみならず業務用を含むすべての映像情報機器の変化を促進している。高精細化、画面サイズの変化、映像表示デバイスの変化のみならず、映像のデジタル化に伴うデジタル画像での画質改善、表示デバイスの表示能力の改善等の開発競争は急速に進んでいる。また、デジタル化とともにネットワーク化、通信との融合の動きが起こっている。三菱電機の映像技術は、ベースとなる研究所での基盤技術と民生機器商品化の実用化技術を融合させながら長年培われてきた。こうした技術は、多くの業務用機器への展開にも活用されてきた。特にデジタル化、高画質化は単純な映像処理のみならず、多様化するデバイスごとの差別化や蓄積機器での差別化等、より多岐にわたってきている。国内では放送の地上デジタル完全移行まで2年半を切った。2008年前半

では、ほぼ普及目標に沿って地上デジタル対応機への移行が進んできたが、これから残された期間で完全に移行するための対策は、これまで以上に重要となってきた。総務省が主導し完全移行に向けた施策が、2008年に“総合対策”として具体的に示された。すなわち、支援センターの設立、集合住宅対策、衛星セーフティネット、生活保護世帯への支援等、完全移行に向けて国を挙げた取組が行われている。放送のデジタル化は多くの映像関連機器に大きな影響を与えるもので、順調な移行を期待する。2008年の北京オリンピック前に急遽(きゅうきょ)妥結したダビング10問題は記憶に新しい。記録、映像伝送によって画質の劣化がない高画質映像の著作権、VOD(Video On Demand)等の新しいサービスでのコピープロテクション等の課題は、新たなビジネスの普及にあたり解決されなければならない。本稿では最近の映像技術の動向と当社の取組について述べる。



当社の映像関連機器

当社の映像機器は、世界最大の“オーロラビジョン”，業務用映像機器，民生テレビ・DVD(Digital Versatile Disc)/BD(Blu-ray Disc^(注2))機器，パソコン用モニター，車載用映像機器と多岐にわたる。各分野とも高画質化，ネットワーク化とともに低消費電力化，使いやすさを訴求するユーザーインターフェースの充実が求められている。